



創立の背景と歴史

澤田美喜の働きは、情熱的なキリスト教への信仰、悲惨な戦後の混乱期に命の危険にもさらされていた混血児たち、そしてドクター・バナードス・ホームの思い出、その三つの延長線上にありました。特にドクター・バナードの伝記を読むと、神からの「招命」を受けた揺るぎない信仰と生来の事業家としての素質、好奇心に満ちたユーモアと茶目っ気、幾分独裁的な決断力、骨身を惜しまない行動力など、美喜とドクター・バナードには似通ったところが多くあります。

1980年(昭和55)美喜は旅行先のスペイン・マジョルカ島で倒れ、一時回復に向かったものの、心臓発作でこの世を去りました。78歳でした。あとに残されたものは大きく、また、社会の変動も激しいもので、聖ステパノ学園は存亡の危機に立つこともありました。

美喜の亡き後、聖ステパノ学園の教育は「キリスト教の信仰と希望と愛の教育」三つの願いとして、信仰：健康で素直な気持ちで神様に感謝する心／希望：どんな環境にも挫けずに希望を持って前進する勇氣／愛：謙遜な気持ちで、さまざまな環境にある人たちに対して思いやることのできる優しい心ーを掲げて、続けられました。

エリザベス・サンダース・ホームの混血の子供たちが世に立ち、状況は変化していきました。エリザベス・サンダース・ホームには違った意味で家庭では育てられない子供たちが措置されるようになり、エリザベス・サンダース・ホームにおける学校法人聖ステパノ学園の働きも変わっていきました。その中で変わらないもの、変わってはいけぬものが、キリスト教の精神で子供たちを育むことでした。「光の子らしく頭を挙げて歩みなさい」という御言葉は、決して卑屈になってはいけぬ、一人ひとりが神の愛する子供なのだから、と教え、「隣りの人を自分のように愛しなさい」という御言葉は、隣りの一人も神の愛する子供たちなのだから、と教えています。

1993年(平成5)外からの通学生を受け入れることになったときに、それを支えたのもキリスト教の教育の原点である人間への愛の力でした。さまざまな環境にある子供たち、とりわけこの小さな学園がさまざまな環境にある一人ひとりの子供たちを愛おしみ、一人ひとりの居場所を見つけていく教育を求めていくことが、創立者の精神を生かすものだと考えられています。支援を必要とする子供たち、大きな学校では適応が困難な子供たち、聖ステパノ学園のキリスト教の教育に賛同する家庭の子供たちを含めたさまざまな環境にある子供たちが、一緒に学校生活を送る中で、神を知り、礼拝や聖書の勉強を通して、お互いを認め合い、支え合っていることを知り、明るくのびのびと個性を生かしていける学校を目指しています。

ちなみにエリザベス・サンダース・ホームの名前は、最初に寄付してくれた人に因みます。サンダースは、三井財閥十一家の一人 三井高精がロンドンに赴任中、息子の乳母として雇ったイギリス人で、一家の帰国とともに請われて来日し、日本で一生を終えた女性です。亡くなったあとに当時としては大金だった5万円ほどが残されており、聖公会の信徒を通して、ホーム設立のために寄付されました。



創立者 澤田美喜 (1901~1980年)
エリザベス・サンダース・ホームの生みの親であり、
2000人近くの混血孤児を育て上げました。



建学の精神

- 1 命を大切にすることを育む
- 2 謙虚な気持ちで神様に祈る心を育む
- 3 人のために尽くす心を育む
- 4 喜んで働く心を育む
- 5 平和を愛する心を育む
- 6 自然に親しむ心を育む

画一的でなく、伸びやかな発想で自分を表現できる心を育むことのできる学校を目指して、児童生徒一人ひとりを大切に、心と心を育む、行き届いた指導を願っています。

創立

1953年(昭和28)聖ステパノ学園幼稚園・小学校、1959年(昭和34)聖ステパノ学園中学校の創設は、澤田美喜の経済的、精神的な苦難と深い信仰のもとでなされた献身的な事業でした。

三菱財閥の創業者 岩崎弥太郎の孫娘である岩崎美喜は、1901年(明治34)東京・本郷で生まれました。東京女子高等師範学校附属高等女学校(現・御茶ノ水女子大学附属中学校、高等学校)在学中、病を得て療養中の美喜は、看護にあたった岩崎家の看護婦が唱えていた「汝の敵を愛せよ」という聖書の御言葉に、キリスト教への深い関心と呼び覚ますこととなりました。岩崎家は代々真言宗の仏教徒で、祖母 喜勢の心配をよそに、美喜はこのころから家人の目を盗んで聖書を読むようになりました。その後、鳥居坂の教会で洗礼を受けるに至っています。

1922年(大正11)22歳のときに、聖公会の信徒であった外交官の澤田廉蔵と結婚。その後、外交官夫人として華やかな海外生活を送りました。ロンドン滞在中に、夫と同じイギリス国教の聖公会の信徒になりました。

華やかな生活の裏側で、美喜は何か物足りなさを感じていましたが、1931年(昭和6)ボランティアとして訪れた児童養護施設ドクター・バナードス・ホームの福祉事業とそこで生き生きと生活する孤児たちの姿は、のちの人生に大きな影響を与えることになりました。

戦後、家庭で育てることができなかった混血の子供たちの養育のために、エリザベス・サンダース・ホームを創設した美喜は、子供たちがのびのびとした学校生活を送れるようにとの願いを込めて、戦死した三男 晃のクリスチャンネームをとって、〈聖ステパノ学園〉を創立したのです。

戦後の混乱した社会情勢の中で、敵国の兵士と日本人女性との間に生まれた混血児は社会から温かい目で迎えられていたとは言い難く、神の啓示を受けた美喜は、そのような子供たちを一人の人間として、愛されるべき存在として、献身的な愛情を注ぎつつ、幾多の困難を乗り越えて養育していきました。



聖ステパノ 校章・マーク
純白の十字の中に、キリスト教の宣教に命をかけた最初の殉教者、苦難の中にあっても真理を曲げない聖ステパノの名が記されています。背後には博愛の心を表わす真紅の輪、自由の心を表わす紺碧の輪が組み込まれています。

学校法人 聖ステパノ学園

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL : 0463-61-1298 FAX : 0463-61-9739